

2022年度 事業報告書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

2022年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

1. 法人総括報告

「CEATEC 2022」は3年ぶりの幕張メッセ開催とともにオンライン会場も展開し、初のハイブリッド形式にて開催。「Inter BEE 2022」は2021年に続き、幕張メッセ開催とオンライン会場を活用したハイブリット形式にて開催。

引き続き主催者と緊密に連携しながら、リアルとオンラインを活用し、出展企業のビジネスへの貢献を図った。また、経済発展と社会課題の解決を両立する Society 5.0 を基軸とした共創の場として、関連産業のみならず関係省庁、国内外の関係団体と緊密に連携し、業界団体が主催する展示会ならではの企画、運営に努めた。

新型コロナウイルス感染症の影響から、米国で開催された「NAB Show 2022」(4月)への日本企業の出展が大幅に減少したため、NAB 日本代表事務所(映像新聞社)と協議の上、「After NAB Tokyo」は開催を中止とした。

事務局運営では、コロナ禍での国・東京都等の指導に基づいて業務を継続し、オフィス勤務と在宅勤務を併用しながら、継続的な協会運営を維持するため経費削減に努めた。

2. 協会運営事業実施報告

総会、理事会、運営役員会等の協会運営に関する重要事項を審議する会議は、新型コロナウイルス感染症拡大への対策として、書面審議、メール審議、オンライン会議にて開催し、円滑な運営を実施した。

(1) 総会

①第18回通常総会【書面審議】(2022年6月1日)を開催し、次の議案を決議した。

- ・令和3年度事業報告及び決算報告承認の件
- ・令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件
- ・役員選任の件

②第19回臨時総会【書面審議】(2022年7月25日)を開催し、次の議案を決議した。

- ・役員選任の件

(2) 理事会

①第57回書面理事会(2022年5月17日)を開催し、次の審議事項を承認した。

- ・令和3年度事業報告(案)承認の件
- ・令和3年度決算報告(案)承認の件
- ・役員選任(案)の件

- ・ 書面審議による第 18 回通常総会の議案承認の件
- ②第 58 回書面理事会（2022 年 6 月 1 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・ 代表理事の選定
 - ・ 役職役員の選定
- ③第 59 回書面理事会（2022 年 7 月 7 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・ 役員選任（案）承認の件
 - ・ 書面審議による第 19 回臨時総会の議案承認の件
 - ・ 会員の退会及び会員数の報告（報告事項）
- ④第 60 回書面理事会（2022 年 7 月 25 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・ 役職役員の選定
- ⑤第 61 回書面理事会（2022 年 11 月 21 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・ 令和 4 年度収支予算（変更案）承認の件
 - ・ 業務執行状況報告
- ⑥第 62 回書面理事会（2023 年 3 月 28 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・ 2023 年度事業計画（案）承認の件
 - ・ 2023 年度収支予算（案）承認の件
 - ・ 執行理事への特別報酬支給の件

(3) 運営役員会

- ①第 55 回運営役員会（2022 年 5 月 11 日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・ 第 57 回理事会【書面審議】議案の件
 - ・ 第 18 回通常総会【書面審議】議案の件
 - ・ 第 58 回理事会【書面審議】議案の件
 - ・ 通常総会 電子承認手続きに関する件
- ②第 56 回運営役員会（2022 年 6 月 30 日）を書面審議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・ 第 59 回理事会【書面審議】の件
 - ・ 第 19 回臨時総会【書面審議】議案の件
 - ・ 第 60 回理事会【書面審議】議案の件
- ③第 57 回運営役員会（2022 年 11 月 8 日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・ 第 61 回理事会【書面審議】議案の件
- ④第 58 回運営役員会（2023 年 3 月 16 日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・ 第 62 回理事会【書面審議】議案の件

3. 展示会事業実施報告

3-1 「CEATEC 2022」

(1) 実施状況

CEATEC 2022 は、10 月 1 日（土）からオンラインでの開催を皮切りに、10 月 18 日（火）から 21 日（金）の 4 日間、3 年ぶりに幕張メッセにて開催した。

今回で 23 回目を迎える「CEATEC」は、2020 年と 2021 年のオンライン開催のノウハウを活用すべ

く、「オンライン会場」と「幕張メッセ会場」でのハイブリッド形式にて開催。

本年の開催規模は、出展者数 562 社／団体（うち海外：27 カ国／地域から 146 社／団体）、開催期間中の登録来場者数は、合計で 81,612 名であった。開催期間中に来場した報道関係者は 565 名で、CEATEC に関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。

10 月 18 日（火）からの幕張メッセでの開催に先立ち、10 月 17 日（月）には、「CEATEC 2022 ANNEX Tokyo」と題して、虎ノ門ヒルズフォーラムにて「グリーン×デジタル」のセッション、CEATEC 2022 の出展者代表による「スペシャルセッション」、また、内閣官房・デジタル田園都市国家構想実現会議事務局との連携による「デジタル田園都市国家構想セッション」を行い、岡田 直樹 デジタル田園都市国家構想担当大臣よりビデオによる開会の挨拶をいただいた。

さらに、オープニングセレモニーを実施し、一般社団法人電子情報技術産業協会 時田 隆仁会長による主催者代表挨拶、ご来賓として、西村 康稔 経済産業大臣、柘植 芳文 総務副大臣、河野 太郎 デジタル大臣、一般社団法人 日本経済団体連合会 篠原 弘道 副会長をお迎えし、ご祝辞を頂戴した。また、会の冒頭に岸田 文雄 内閣総理大臣よりビデオメッセージによるご祝辞を頂戴した。各社経営幹部、大使館関係者、官公庁関係者など、245 名にご参集いただき、参加者同士の懇親を図った。

なお、セレモニーでは「CEATEC AWARD 2022」大臣賞表彰を実施し、大臣および副大臣から直接、賞状と盾の授与とともに、今回、初めて大臣賞の展示も行い、大臣を始め参加者にご覧いただいた。

また、次世代人材育成の取組みとして、学生等にデジタル知識を習得してもらうため、オンライン会場では「みらいセッション」と題して、インタビューやディスカッションの場や各種のシンポジウム等を配信、幕張メッセ会場では、半導体産業の魅力や可能性発信すべく、半導体フォーラム 2022 ブースを設置した。

(2) 収支報告

本年は 562 社／団体が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は 398,428,000 円となった。それに対する事業費支出は 316,816,931 円、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替 85,000,000 円を加算した支出合計は 401,816,931 円となり、単年度収支差引は、▲3,388,931 円となった。

前年度繰越金 20,069,318 円と本年の収支差引額の合計 16,680,387 円が、次年度繰越額となった。

(3) 展示構成

① パートナーズパーク	独自テーマを設定し、あらゆる産業・業種のパートナーとともに Society 5.0 の未来社会を体現する「共創」エリア。 デジタル田園都市国家構想実現に向けて 14 のパートナーによるパビリオンと共創の取り組みを紹介するトークセッションを展開。パーク全体では、124 の企業が集結した。
② トータルソリューションエリア	Society 5.0 の実現に向けた、あらゆるソリューションや製品全般を展開するエリア。
③ キーテクノロジーエリア	Society 5.0 の実現を支える電子部品や電子デバイスおよびソフトウェアなどのテクノロジーを展開するエリア。

④スマート×インダストリーエリア	特定の分野や産業、マーケットを革新的に変革するソリューションや製品を展開するエリア。
⑤グローバルエリア	アメリカ、インド、英国、カナダ・オンタリオ州、台湾、デンマーク、フランス、ポーランド、UAE が独自のパビリオンを設置。各国の注目企業がオンライン会場と幕張メッセ会場でのピッチステージを通じて最新情報を発信。
⑥スタートアップ&ユニバーシティエリア	80 を超える国内外のスタートアップや大学の研究機関が出展。ピッチステージでは、参加するスタートアップや大学研究機関によるピッチと Plug and Play Japan による特別プログラムを開催。

(4) CEATEC AWARD 2022

「Society 5.0」の実現を促し、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的として実施するもので、CEATEC AWARD 2022 審査委員会による厳正な審査により選出された。

①総務大臣賞	「ローカル 5G 小型一体型基地局 UNIVERGE RV1200」 日本電気株式会社
②経済産業大臣賞	「屋内光発電デバイス 『LC-LH』」 シャープ株式会社
③デジタル大臣賞	「工作機械を動かす加工プログラムを完全自動生成する世界初の AI ソフトウェア「ARUMCODE1」」 アルム株式会社
④部門賞 トータルソリューション部門	<p>【グランプリ】</p> <p>「超軽量小型高出力超電導モーター ～モビリティ分野の脱炭素化に貢献～」 東芝エネルギーシステムズ株式会社</p> <p>【準グランプリ】</p> <p>「ベクトルアニーリング（疑似量子アニーリング）による社会課題解決の実践」 日本電気株式会社</p> <p>「高精細 空中ディスプレイ」 京セラ株式会社</p>
④部門賞 キーテクノロジー部門	<p>【グランプリ】</p> <p>「あらゆる機器を賢くできるムラタのエッジ AI モジュール」 株式会社村田製作所</p> <p>【準グランプリ】</p> <p>「空中表示/入力デバイス「ステルス空中インターフェース」」 アルプスアルパイン株式会社</p>
④部門賞 スマート×インダストリー部門	<p>【グランプリ】</p> <p>「i3 Micro Module: 予知保全を実現するエッジ AI 対応ワイヤレスセンサモジュール」 TDK 株式会社</p>
④部門賞 スタートアップ&ユニバーシティ部門	<p>【グランプリ】</p> <p>「搬送用自律移動ロボット：Mighty-D3」 株式会社 Piezo Sonic</p>

④部門賞 パートナーズ部門	【グランプリ】 「WHOLE EARTH CUBE 自律分散型インフラを搭載したサステナブルで レジリエントな次世代の居住空間」 北良株式会社／WOTA 株式会社／MUSVI 株式会社
------------------	---

受賞した各社の栄誉を称え、会期中、大臣賞、各部門のグランプリ・準グランプリの内容を中央エントランスの会場正面に掲示し、CEATEC の見どころとして来場者に紹介した。また、公式サイト内に特設ページを設け、オンラインでの情報発信を行った。

(5) 出展者数／登録来場者数

①出展者数 (562 社／団体)

パートナーズパーク	124
トータルソリューションエリア	144
キーテクノロジーエリア	71
スマート×インダストリーエリア	36
グローバルエリア	85
スタートアップ&ユニバーシティエリア	81
オンライン	21

②海外出展状況 (27 カ国／地域・146 社／団体)

アジア地域	7 カ国／地域・55 社／団体
北米地域	2 カ国／地域・30 社／団体
欧州地域	13 カ国／地域・51 社／団体
中東地域	3 カ国／地域・8 社／団体
オーストラリア地域	1 カ国・1 社／団体
南米地域	1 カ国・1 社／団体

③登録来場者数 (幕張メッセ)

10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)	合計
19,815 人	18,103 人	20,430 人	23,264 人	81,612 人

3-2 「Inter BEE 2022」

(1) 基本概要

Inter BEE 2022 は、コンテンツを中心に、コンテンツを「つくる(制作)・おくる(伝送)・うける(体験)」の全てを網羅したメディア総合イベントとして、2021年に続き幕張メッセでのリアル開催とオンライン会場を活用したハイブリット形式にて開催した。

メディアの変革・拡張と共に、幅広い産業分野での動画制作ニーズの広がりや先端コンテンツ技術、メタバース、AIなど、コンテンツ制作分野の新潮流とメディアとエンターテインメントの可能性などメディア産業の最新動向について、関連業界団体等と協力し、多彩なコンファレンスのセッション

ンや特別企画を実施。新たなビジネス、新たなかたちのコンテンツの創造に向けた、多様な情報交流の機会の場を構築した。

(2) 収支報告

本年は 810 社／団体が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は、392,171,827 円となった。それに対する事業費支出は 316,553,809 円、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替 66,000,000 円を加算した支出合計は 382,553,809 円となり、単年度収支差引は 9,618,018 円となった。前年度繰越金 11,888,461 円と本年の収支差引額の合計 21,506,479 円が、次年度繰越額となった。

(3) 開催概要

①名称：Inter BEE 2022

②会期：2022 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）

※オンライン会場は、2022 年 11 月 1 日（火）～12 月 23 日（金）まで公開

③場所：幕張メッセ（千葉市・美浜区）／オンライン (<https://www.inter-bee.com>)

(4) 特別企画コンファレンス／特別企画イベント

①INTER BEE FORUM

基調講演や特別講演では、業界の最新技術動向や新しい発想を提案する多彩なセッションから、テーマを絞った内容の濃いディスカッションまで、メディア・エンターテイメントを網羅するバラエティに富んだコンファレンスをオンラインと幕張メッセで実施。

②出展者セミナー

製品、技術、サービスなどの最新情報を出展者が詳細にわかりやすく説明するセミナーをオンラインで実施。

③INTER BEE EXPERIENCE

国内最大の SR スピーカー試聴体験イベント。ライブエンターテインメント分野のプロフェッショナルユーザーに向けたワールドクラスの SR スピーカーの体験デモンストレーションを幕張メッセイベントホールにて実施。

④INTER BEE CONNECTED

放送と通信の融合がますます進み、メディアコミュニケーションは様々な取組みに挑み始めている中、先進テクノロジーから放送コンテンツの次の可能性を発信し、新たな進化に向けた提案や放送と新しいビジネスの互いの価値が発見できる場として展開。

⑤INTER BEE IGNITION×DCEXPO

INTER BEE IGNITION は、新たにデジタルコンテンツ EXPO と融合し、先進映像技術や先端コンテンツ制作技術を広く発信。

⑥INTER BEE CREATIVE

インカメラ VFX を中心にバーチャルプロダクション関連機材、ツール、ソフトウェアなど、最新動向を紹介。

⑦INTER BEE IP PAVILION

世界的に放送システムの IP 化が加速する中、IP 中継車、リモートプロダクションデモ、IP 特別講演、リレー技術セミナーなどで Media over IP の世界において初歩から実際の稼働の様子、導入事例までを紹介。

(5) 同時開催

①第 59 回民法技術報告会（主催：一般社団法人 日本民間放送連盟）

11 月 16 日（水）から 18 日（金）の 3 日間、幕張メッセ 国際会議場 3 階にて開催した。

②全映協フォーラム 2022 in 幕張（主催：一般社団法人 全国地域映像団体協議会）

11 月 17 日（木）に幕張メッセ 国際会議場 1 階にて開催した。

(6) 出展者数／小間数

①出展者数（810 社／団体）

展示部門	出展者数
プロオーディオ	213
映像表現／プロライティング	59
映像制作/放送関連機材	473
ICT/クロスメディア	65

②海外出展状況（27 カ国／地域・146 社／団体）

アジア地域	9 カ国／地域・90 社／団体
北中南米地域	5 カ国／地域・153 社／団体
太平洋・中東・アフリカ地域	3 カ国・14 社
ヨーロッパ地域	20 カ国／地域・166 社／団体

(7) 登録来場者数

	11 月 16 日（水）	11 月 17 日（木）	11 月 18 日（金）	合 計
国内登録来場者数	8,600 人	9,048 人	8,507 人	26,155 人
海外登録来場者数	437 人	158 人	151 人	746 人
合 計	9,037 人	9,206 人	8,658 人	26,901 人

以 上